

『哲学の探求』第28号刊行にあたって

梅雨明けまちかの2000年7月15日・16日、東京の晴海で第28回全国若手哲学研究者ゼミナールが開催されました。この冊子『哲学の探求』第28号は、昨年のゼミナールでの研究発表、テーマレクチャーに基づいたものです。

全国若手哲学研究者ゼミナール（通称「若手ゼミ」）は、年1回開かれる合宿形式の研究集会で、大学院生やオーバードクターに、大学、地域、専門の垣根を越えて哲学を議論する場を提供することを目的としています。若手ゼミは財政的援助はまったく受けておらず、毎回の参加者からの参加費と雑誌『哲学の探求』の売り上げだけで運営されています。

昨年の若手ゼミには、首都圏の大学からの参加者を中心に、名古屋大、京都大、龍谷大、大阪大、神戸大、広島大からの参加者を加えた50名弱の若手研究者が集いました。「道徳の根拠」と題したテーマレクチャーと12コマの個人研究発表に加え、3人のレクチャーを交えた懇親会でのくつろいだ雰囲気での議論、また各居室での夜遅くまでの交流と、合宿形式ならではの盛りだくさんの内容でした。

昨年の若手ゼミをこのような充実した研究集会とすることができたのは、若手ゼミに参加して下さったすべてのみなさん、とりわけ、3名のレクチャーの方々、そして、若手ゼミを活気づけて下さった個人研究発表者の方々のおかげです。昨年度の若手ゼミ世話人を代表してお礼を申し上げます。

今年度は、7月14日・15日に東京の晴海で開催予定です。『哲学の探求』第28号には、今年度のテーマレクチャー「科学時代の哲学」でお話いただく3人の方による講演要旨が掲載されています。なお、今年度の集いの詳細については巻末にあります今年度の世話人まで問い合わせさせていただきをお願いします。

なお、全国若手哲学研究者ゼミナールは、今年度より「哲学若手研究者フォーラム」へと名称変更しました。昨年度の若手ゼミでの全体会（若手ゼミのあり方をその年の参加者で話し合うもの）で名称変更の方針が可決され、全体会で決定された手続きに従い名称の応募、投票が行われた結果、この新名称に決まりました。

2001年 3月27日

2000年度全国若手哲学研究者ゼミナール世話人代表
法野谷俊哉